

県立長岡屋内プール(仮称)整備・運営事業

■事業概要

発注者	新潟県			
施設概要	施設規模:約15,100㎡ 主要機能:プール(競泳プール、飛込プール、サブプール)、観客席、その他施設(更衣室、医務室、放送室、会議室等)、自由提案施設			
事業内容等	国内外の競技会に対応できる総合的な機能を有する施設の整備・運営事業			
事業期間	約18年(管理運営約15年)			
事業形態	BTO方式、サービス購入型			
VFM	VFM(特定事業の選定):約3.3~7.2% VFM(事業者選定段階):約24.8%			
テーマ	テーマ3:地球温暖化への対応			
スケジュール	実施方針公表	平成16年3月26日	落札者決定	平成17年4月22日
	特定事業選定	平成16年6月2日	契約締結	平成17年7月15日
	入札公告	平成16年12月17日	供用開始	平成20年8月1日
事業者	長岡屋内総合プール株式会社(代表企業:株式会社 大林組)			

県立長岡屋内プール(仮称)整備・運営事業

■事業の特徴

●光熱水費の変動量リスクの取り扱い

類似施設(プール施設)のPFI事業では光熱水費の変動リスクを事業者リスクとする場合が多いが、本施設は大規模施設ということもあり、民間事業者にも予測が難しく、プール利用数も競技力向上・大会利用のため、競技利用人数や時間等は事業者ではコントロールすることができないなど、事前の事業者意向調査でも光熱水費の変動リスクの扱いを懸念する意見がいくつか挙げられていた。そのため、光熱水費の変動リスクは官民双方で分担する考えとし、プールの用途及び規模等を勘案し、県:事業者で7:3の割合で変動リスクを負担することとした。ただし、事業者にも光熱水費の積算や抑制に責務を持たせるため、著しい(20%を超える)変動については事業者リスクとした。

●事業者提案の評価

①入札時の状況

審査項目として「環境保全対策の充実」に5点を配したこともあり、どの応募グループからも積極的な提案がなされており、具体的には、コージェネレーションの採用や、地中熱の活用、クールチューブ、ウォームチューブ等の積極的な提案が見られた。

環境負荷低減に関しては、エコマテリアルや再生材の活用、3R(廃棄物の減量、再使用、再資源化)の理念をもとにしたゼロエミッション活動などが提案された。

② サービス開始後の状況

ガスについては、規定に基づく単価見直しの必要が生じたため、若干、ガス料金単価は上昇した。量は概ね提案時通りである。

水道は、規定に基づく単価見直しの必要は生じなかった。量については想定量よりも少なくなっている。

電気は、規定に基づく単価見直しの必要は生じなかった。量は想定量を20%程度上回りそうである。これは、県の指示による融雪設備の仕様変更(電気使用によるものに変更)に起因するものである。